この人　この仕事

フリー編集者
（元「格闘技通信」編集長）

朝岡　秀樹氏

報道方針は「ノーフェイク」
格闘家の顔持つ編集者

「おまえ撃ち殺すぞ」――ベースボール・マガジン社がかつて発行していた雑誌「格闘技通信」。当時、その編集長だった朝岡秀樹氏が実際に関係者から言われた言葉だそうだ。

幼い頃から格闘技好きで、高校生の時に総合格闘技「大道塾」に入門。めきめき頭角を現し、同団体やアマチュア修斗の全日本選手権で優勝した戦歴を持つ。プロではないが本格的な格闘家である。

同社入社後は「格闘技通信」編集部へ配属され、１９９９年に30歳の若さで５代目編集長に就任。その時、方針として掲げたのが「ノーフェイク」（偽りなし）だった。

「格闘技には八百長、暴力団との関係、薬物――といった現実や悪いイメージがある。これを払拭し、多くの人に興味をもってもらうために打ち出した」

物的証拠をもって、明らかに八百長と言える試合は無いという朝岡氏。しかし、疑わしい勝負は現実に存在する。そんな時、それがどんなに大物の試合であっても試合レポートの扱いは小さくする。例えばこのような〝抗議〟を誌面で展開していった。

「応援と反発は半々で、『撃ち殺す』と言われたこともあった（笑）。そりゃ怖いけど、言われれば言われるほど『屈してはいけない』という気持ちが沸き上がった」

残念ながら格闘技ブームの終焉など様ざまな事情で２０１０年に休刊。しかし、00年代に「格闘技通信」を手にしたことのあるファンなら、この報道姿勢を記憶している読者も少なくないだろう。

その後は格闘技やからだ作りの書籍を担当している。切り口は「自分が読みたいもの」と「市場にないもの」の２つだ。

『まったく新しいボクシングの教科書』を手がけた際は、「当り前のことしか書いてない」類書が多いなか、細かな動きまでを詳解。結果、ニッチな市場ながら2万１０００部（６刷）を発行した。一方、元格闘家の須藤元気氏のエッセイ『風の谷のあの人と結婚する方法』は15万部（11刷）と、一般書でも成功を収めた。

実は朝岡氏は昨年９月にベースボール・マガジン社を退社し、現在はフリーで活動している。大道塾水道橋支部の主将として、技術指導にも力を入れたいとの思いがあったからだ。「スポーツはモノを消費しないで満足感が得られる。実際の（スポーツの）活動と、メディアとしての活動の双方を通じてその良さを広めていきたい」。

編集者と格闘家の２つの顔を合わせもつ朝岡氏。多忙な合間を縫って、今日も後進育成のため道場に立つ。

（冨）